

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題	「本の街」神田神保町にみる成熟した専門店街の変容
Title	Transformation of a mature specialty store town seen in "Book Town" Kanda-Jinbocho
著者	山崎賢悟, 津々見崇
Authors	Kengo Yamazaki, TAKASHI TSUTSUMI
出典	都市計画論文集, Vol. 42, No. 3, pp. 163-168
Citation	Journal of the City Planning Institute of Japan, Vol. 42, No. 3, pp. 163-168
発行日 / Pub. date	2007, 10
権利情報 / Copyright	本著作物の著作権は日本都市計画学会に帰属します。本著作物は著作者である日本都市計画学会の許可のもとに掲載するものです。ご利用に当たっては「著作権法」に従うことをお願いいたします。

28. 「本の街」 神田神保町にみる成熟した専門店街の変容

Transformation of a mature specialty store town seen in "Book Town" Kanda-Jinbocho

山崎 賢悟*・津々見 崇**
Kengo Yamazaki and Takashi Tsutsumi

Abstract: This paper aims to clarify the transformation of "Book-Town" Kanda-Jinbocho as a mature specialty store town since 1968, to get knowledge for continuous development. The conclusions are as follows; 1) Kanda-Jinbocho matured as a book town around 1960 when secondhand book festival began. 2) The number of bookstore has largely increased after 1995 and in late years it reaches about 200. Kanda-Jinbocho keeps its vitality through internal/external exchange. 3) New bookstores that were established after 1968 are for general customers, but they don't have open appearance. Some of them make effort to be more open by Sunday's operation. 4) The each quarter is characterized by its bookstores. Kanda-Jinbocho has kept its original characteristic and growth through several quarters that have different character.

Keywords: Bookstore, Specialty Store Town, Kanda-Jinbocho, Pulling in Customers, Openness
書店、専門店街、神田神保町、集客性、開放性

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

明治以降に形成された特徴的な都市空間のひとつに、同業種の小売商業店舗が高密度に集積した「専門店街」がある。「秋葉原電気街」や「本の街・神田神保町」のような専門店街は初山らが言うように「同業種の店舗が高密度に集積することで広域的な集客力を有し、活力を有する」¹⁾と考えられることから、専門店街は商業地が目標とする姿の一つだと位置づけられよう。

一方で、近年ではインターネット等を介した通信販売が普及してきており、直接店舗を訪れなくとも商品購入が可能となっている。これは実際に商品を見られないことや入手するまでに時間がかかることなどのデメリットがあるが、店舗を訪れて商品を探す手間を省くことができるメリットもある。つまり成熟した知名度の高い専門店街は、例えば「本の街」神田神保町であれば、「本を買いに訪れる人」がいることで活気を維持しているが、その「本を買いに訪れる人」が減少すれば、活気が失われ衰退する危険性がある。

専門店街に関しては、西荻窪のアンティーク街¹⁾、大阪市内の8ヶ所²⁾等を対象として、その形成メカニズムについて分析した研究が見られる一方で、神田神保町のように形成期を過ぎ成熟した専門店街がどのように変容していったのかを考察したものは見られない。

そこで本研究では、成熟した専門店街のケーススタディとして「本の街」神田神保町を対象とし、専門店街の形成から成熟に至る過程を把握した上で、(1)成熟後の「本の街」神田神保町の変容、及び(2)現在の書店の特徴や立地特性、を明らかにすることで、専門店街の継続的発展に関する知見を得ることを目的とする。

具体的には、2章で「成熟した専門店街」として神田神

保町を研究対象とすることの妥当性を検証し、期間や地理的範囲を確定した後、3章では成熟した後の書店立地の変遷を定量的に把握する。以後、現存する書店を対象に、成熟した「本の街」神田神保町に立地する書店の基本属性や開放性に関する特徴(4章)、及び成熟した「本の街」神田神保町の空間的特性(5章)、を明らかにする。

なお、本研究では書店数が増加もしくは維持している状態をもって継続的発展と捉え、売上高など商業上の盛衰は扱わない。また、街に活気を与える「本を買いに訪れる人」を惹きつける性質、即ち集客性の要素として、書籍そのものの「品揃え」「価格」や、訪れやすさとしての「交通便利性」「開放性」等が考えられるが、「本を買いに訪れる人」が回遊することが活気に繋がるとの観点から本研究では「開放性」に特に着目する。

(2) 研究の方法及び対象

本研究では、商業統計、電話帳、「BOOK TOWN じんぼう」等のHP、及び現地観察調査からデータを作成し分析した。対象とする地区は東京都千代田区神田神保町周辺(詳細は2章参照)とし、地区内の新刊書店・古書店を扱う。

2. 「成熟した専門店街」としての神田神保町の位置づけ (1) 「本の街」神田神保町の成熟と注目度の上昇

①「本の街」神田神保町の沿革と成熟時期の特定：古書組合の各組合史³⁾⁴⁾⁵⁾⁶⁾等より、「本の街」神田神保町の沿革を概観する。現在の神田神保町周辺では、幕末以降に周辺に多くの学校ができたのに伴い、1880年頃から神保町の表通りに書店ができ始めた。大火や関東大震災の被害に遭うも、復興での書物需要に応じて発展し書店街となり、1916年には神田小川町に「図書倶楽部会館(現・古書会館)」もできた。第二次世界大戦では奇跡的に戦災を免れ、戦後も需要

* 学生会員 東京工業大学大学院情報理工学研究科 (Tokyo Institute of Technology)

** 正会員 東京工業大学大学院情報理工学研究科 (Tokyo Institute of Technology)

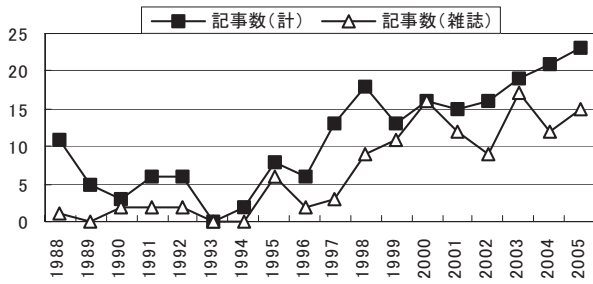


図1 神保町エリアに関する記事数の推移



図2 「神保町エリア」の範囲とブロック区分、書店立地プロット(68と05)

増大に伴い順調に成長した。1960年秋からは「神田古本まつり」が始まり、同時期に「神田古書店地図帖」(エリアマップ)の無料配布が始まった。以後は神田神保町全体の書店の立地に影響するような大きな災害・再開発はなく、バブル期も転出する書店は僅かであったことから、1960年頃に神田神保町の『本の街』として成熟したと捉えることができる。2003年には古書会館も建て替えられ⁷⁾、2005年にはインターネット上での在庫情報の検索システムが開設⁸⁾されるなど、新たな集客を目指した一般向けの取り組みも増えている。

②「本の街」神田神保町の掲載記事数の変化：新聞や雑誌への神保町エリアに関する記事の掲載数から、同エリアへの注目度の変化を捉える。朝日新聞記事データベース及び

表1 神保町エリアの構成業種

産業分類	事業所数	特化係数
書籍・雑誌小売業	178	35.49
楽器小売業	43	34.41
スポーツ用品小売業	61	28.17
中古品小売業	16	9.04
他に分類されないその他の小売業	48	8.32
時計・眼鏡・光学機械小売業	20	6.08
紙・文房具小売業	16	5.01
医薬品小売業	18	3.93
男子服小売業	18	3.54
料理品小売業	27	3.31
調剤薬局	14	3.20
洋品雑貨・小間物小売業	10	2.56
コンビニエンスストア	17	2.30
たばこ・喫煙具専門小売業	10	2.06
酒小売業	13	2.01
菓子・パン小売業	18	1.73

大宅壮一文庫雑誌記事検索を用いて1988年以降の神保町エリアに関する記事を抽出し⁽¹⁾、その数を集計したところ(図1)、1995年から記事数が増えており、神保町エリアへの関心の高まりが窺える。特に雑誌記事数は1996年までの9年間の合計

が15件であることに對し、1997年から2005年の9年間の合計は104件である。掲載している雑誌は『東京ウォーカー』『散歩の達人』等のタウン情報誌を中心に、週刊誌や男性誌、女性誌など多岐に亘っている。

(2)「本の街」神田神保町の範囲と書店の集積

①「本の街」神田神保町の範囲の特定：最新の商業統計⁹⁾から得られる千代田区の書籍・雑誌小売業(新本、古書を含む)の町目別の書店数を用いて「書店密度」(軒/k²)を算出した。これが23区(6.2軒/k²)および千代田区(31.9軒/k²)より高く、かつ神田神保町と連担する町を抽出すると、神田小川町、神田駿河台、西神田、三崎町の4町目となる。これらに内包される猿樂町を加えた計6町目(図2)を現在の「本の街」神田神保町の範囲と定義し(以降、「神保町エリア」と呼ぶ)、以降の分析対象とする。

②神保町エリアの構成業種：各業種分類別の1k²当りの事業所数密度を、商業統計(細分類)を用いて算出した。神保町エリアの事業所密度が23区平均及び千代田区平均以上、かつ事業所数が10軒以上のものを見ると、16の小売業が抽出された。これらにおいて事業所密度を23区の事業所密度で除した「対23区特化係数」(神保町エリアでその業種事業所は23区全体平均の何倍立地しているかを表す値)を求め、前述の16業種について降べきに並べたものが表1である。トップは「書籍・雑誌小売業」であり、続いて「楽器小売業」「スポーツ用品小売業」も高い値を示しているが、事業所数では「書籍・雑誌小売業」と100軒以上の差があることから、神保町エリアは名実共に「本の街」であると言える。

(3)2章のまとめ

神保町エリアに書店ができた契機は、明治時代の学校の集積によるものである。大火や震災、戦災などからの立ち直りでも、復興時の書物需要が大きく貢献してきた。戦後は「神田古本まつり」の開始や「神田古書店地図帖」の無料配布により1960年頃成熟を迎えた。1995年以降、新聞・雑誌掲載記事数が増加し、一般消費者への露出が高まっている。「本の街」の範囲は神田神保町を中心とした6町目であり、神保町エリアは「書籍・雑誌小売業」が高密度に集積した、本の専門店街である。

3. 成熟後の書店立地の変遷

本章では書店の住所を把握するため、電話帳¹⁰⁾が入手可能な1968年以降現在までを対象期間とする。

(1)書店数の推移

神保町エリアの書店数をグラフ化したものが図3である。1977年までは140~150軒で推移していたが、1979年から急増し、1983年では180軒を越えている。その後は一旦落ち込み、1995年までは160軒強で安定していた。バブルが崩壊し、地価が下がり始めた1996年頃から再び増加傾向を示し、2003年には200軒を越えた。2005年では195軒の書店が存在している。総じて、漸増の傾向が続いていると言える。

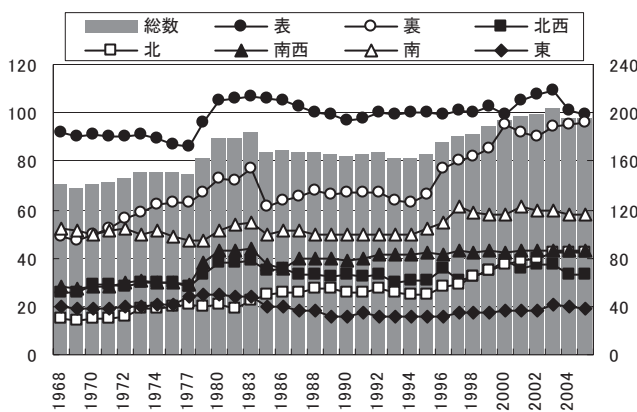


図3 書店数の推移

表2 ブロック毎表裏別書店数

	北西		北		南西		南		東		計
	表	裏	表	裏	表	裏	表	裏	表	裏	
1968	20	6	6	9	24	4	35	17	7	13	141
1974	15	15	7	12	26	4	34	17	7	14	151
1980	16	22	7	14	38	5	36	15	8	17	178
1985	17	18	10	15	36	1	35	15	8	12	167
1990	14	19	9	17	35	4	33	17	6	10	164
1995	14	17	10	15	34	8	35	17	7	9	166
2000	15	24	12	25	34	8	32	26	6	12	194
2005	12	21	11	31	36	7	33	25	7	12	195

表3 書店の移動

	表	裏	北西	北	南西	南	東	計
継続	46	6	6	3	13	25	5	52
エリア内移動	26	58	31	20	7	15	11	84
移動先	21	63	24	22	7	22	9	
消滅	77	116	43	41	32	52	25	193
新規	89	158	57	66	47	51	26	247

とし、またこれら3道路で〔北西〕〔北〕〔南西〕〔南〕〔東〕の5ブロックに分け⁽²⁾(図2)、立地する書店数の推移を集計した。

表裏別の推移は図3折れ線グラフのようになる。全期間を通じて〔表〕の方が多いが、1995年以降は〔裏〕で増加し、2005年では僅差である。また1968年と2005年の分布を比較すると(図2)、1968年は靖国・白山通り沿いの線的な分布だが、2005年では〔裏〕が増加したことからの面的な広がりを見せており、神保町エリアは「本の通り」ではなく「本の街」となった。

ブロック別では、〔南〕は全期間通じて最も書店数が多い(図3折れ線グラフ)、神保町エリアの中心的ブロックであると言える。〔北〕で一貫して増加し続けており、〔南西〕も複数の書店が入居した神田古書センターの完成に伴い1979年頃に書店数が増加している。〔北西〕では増加・減少を繰り返し、〔東〕では少数安定となっている。

さらにブロックと表裏をおよそ5年ごとにクロス集計すると(表2)、〔北西〕では1968年に〔表〕20軒、〔裏〕6軒だったのが2005年には〔表〕12軒、〔裏〕21軒と逆転している。〔北〕では〔表〕の5軒増加に対し、〔裏〕では22軒増加し、〔裏〕中心の発展を見せている。〔南西〕は常に〔表〕が中心である。

以上の通り、〔北西〕は表通りから裏路地に分布域が移ったブロック、〔北〕は裏路地を中心に成長したブロック、〔南西〕は表通りが中心のブロック、〔南〕は書店数が多い神保町の中心ブロック、〔東〕は書店数が全期間通じて少なく、書店数の変化も少ないブロックと言える。

(3) 書店の移動

対象期間内の各電話帳に掲載されている書店は全部で451軒であった。掲載されている書店名・住所データを元に書店の立地・移動について整理⁽³⁾した(表3)。なお、一つの書店が「継続」「エリア内移動」「新規」「消滅」の二つ以上に該当する場合は重複して数えられるため、これらの合計数は延べ576軒になった。全期間で一度も移動がない「継続」は52軒のみであり、「エリア内移動」(移動元・移動先の合計は同数になる)は延べ84軒、閉店や移転で神保町エリアから「消滅」した書店は延べ193軒、逆に対象期間の途中から神保町エリアに「新規」に立地した書店は延べ247軒という内訳となった。このように神保町エリアの書店のボリュームは、エリア内外間での活発な新陳代謝によってもたらされていると言える。「継続」は〔表〕46、〔裏〕6軒であり、中でも〔南〕の「継続」が25軒で、「継続」全体の半数を占める。「継続」以外はいずれも裏が多い。

(4) 3章のまとめ

神保町エリアの書店数は、この30年間漸増している。〔南〕のような中心ブロックの書店数は減ることなく、かつ多くの「継続」が残るなど神保町エリアの歴史を象徴するブロックである。一方〔北〕のように近年の成長を大きく支えるブロックも見られ、同じ神保町エリアの中でもブロックによって変遷の様子が異なる。さらに、2005年の全195軒のうち、1968年以降の約30年間で一度も移動していない書店は全体の約1/4の52軒のみであり、「新規」出店は平均すると毎年約7軒になる。つまり、神保町は成熟した後も新しい書店が継続して立地し、また一定量の書店は何らかの事情で去っていくというように新陳代謝を繰り返し、常に新規性を保ちながら成長してきたと言える。

4. 立地時期別の書店の特徴

本章以降では、現在の「BOOK TOWN じんぼう」ホームページ⁽⁴⁾と電話帳に掲載される246軒の書店を分析対象とする。本章では神保町エリアの変容をみるため、1968年以前から存在していた書店と1968年以降に神保町エリアに立地した書店の差異を、書店の基本属性と開放性により、明らかにする。

(1) 書店の立地時期

書店の立地時期からその経歴を、1968年以前から存在していた【存続】書店と1968年以降に神保町エリアに立地した【新店】に分類した(表4)。246軒のうち【存続】は90軒であり、その内訳は、電話帳で「継続」が確認されるものが52軒、同じく電話帳で「エリア内移動」が確認されるものが12軒、電話帳には掲載されていないが「BOOK TOWN

表4 書店の経歴と基本データの関係 ※カッコ内は特化係数

	専門分野									販売形態			計
	サブカルチャー	趣味・アート	人文科学	社会科学	外国書	古典籍	自然科学	ノンジャンル	その他	店売り	事務所のみ	不明	
経歴 存続	5 (0.46)	15 (0.80)	11 (0.79)	9 (1.76)	11 (1.25)	6 (1.82)	4 (0.91)	20 (1.30)	9 (0.95)	80 (1.09)	5 (0.41)	5 (1.14)	90 (1.00)
経歴 新店	25 (1.32)	36 (1.11)	27 (1.12)	5 (0.56)	13 (0.85)	3 (0.53)	8 (1.05)	22 (0.83)	17 (1.03)	121 (0.95)	28 (1.34)	7 (0.92)	156 (1.00)
計	30 (1.00)	51 (1.00)	38 (1.00)	14 (1.00)	24 (1.00)	9 (1.00)	12 (1.00)	42 (1.00)	26 (1.00)	201 (1.00)	33 (1.00)	12 (1.00)	246 (1.00)

表5 書店の経歴と開放性の関係 ※カッコ内は特化係数

	1階	外から見える	日曜営業	看板あり	開放的	閉鎖的	計
	経歴 存続	71 (1.25)	64 (1.25)	25 (0.81)	74 (1.04)	22 (1.15)	2 (0.84)
経歴 新店	72 (0.84)	65 (0.84)	53 (1.13)	104 (0.97)	26 (0.90)	4 (1.11)	121 (1.00)
計	143 (1.00)	129 (1.00)	78 (1.00)	178 (1.00)	48 (1.00)	6 (1.00)	201 (1.00)



写真1 開放的書店の例



写真2 閉鎖的書店の例

じんぼう」等で『1946 (昭和21)年 (中略)白山通り沿いに移転してきた』¹¹⁾といった記述がなされ継続が確認されるものが26軒となっている。残りの156軒が【新店】である。

(2) 書店の基本属性

①専門分野:「BOOK TOWN じんぼう」HPに記載されている情報等を元に、各書店の専門分野を集計した⁴⁾。結果は表4左の通りである。「趣味・アート」が51軒で最多、次いで「ノンジャンル」の42軒、「人文科学」の38軒、「サブカルチャー」の30軒となっている。「古典籍」「自然科学」「社会科学」などは少なく、総じて専門家向けよりも一般向けの書籍を専門とする書店が多いことが分かる。

次に経歴と専門分野との関係を見るためにクロス集計を行い、専門分野別の割合を全体平均で割った特化係数を算出した(表4左)。「存続」は【新店】よりも「社会科学」「外国書」「古典籍」「ノンジャンル」において特化係数が大きく、一方で【新店】は「サブカルチャー」「趣味・アート」「人文科学」「自然科学」で【存続】よりも特化係数が大きい。このことから、1968年以前から【存続】する老舗書店が多いのは、「社会科学」「外国書」「古典籍」といった研究者・専門家向けの専門分野であり、逆に【新店】が多いのは「サブカルチャー」「趣味・アート」「人文科学」など一般向けの専門分野という傾向が読み取れる。さらに、「ノンジャンル」は【新店】が【存続】よりも相対的に少なくなっていることから、最近では専門性(ジャンル)を有した書店が増えている様子が窺える。

②販売形態:「店売り」もする書店と「事務所のみ」を構える書店に分類した(表4右)。「店売り」を行う書店が201軒で全体の82%を占め、「事務所のみ」は33軒である。

次に経歴と販売形態との関係を見るためにクロス集計を

行い、販売形態別の割合を全体平均で割った特化係数を算出した(表4右)。「店売り」では特化係数が【新店】よりも【存続】の方がやや大きい。逆に「事務所のみ」しかない書店は【新店】の方が特化係数が大きく、【存続】は非常に小さい。これらのことから、全体としては「店売り」が多く経歴も新旧混交しているが、「事務所のみ」は数が少なく、特に【新店】が多くを占めている点が特徴だと指摘できる。

(3) 開放性

近岡ら¹²⁾は「一見の客、あるいは通りがかりの客の入りやすさを、外観から判断することのできる」4つの指標、すなわち、「1階にあるか」「外から店内が見えるか」「日曜に営業しているか」「店舗の存在を示す看板があるか」を用いて、開放性を分析している。これに倣い本節では、「店売り」を行う201軒の書店を対象に上記4指標について観察調査を行い、現在営業している書店の開放性を調べた。併せて経歴と開放性との関係を見るためにクロス集計を行い、開放性の各指標別の割合を全体平均で割った特化係数を算出した。結果は表5の通りである。

①開放性の各指標:「1階」にある書店は143軒で、全体の約71%である。来街者にとって入りやすい要件の一つである、「外から見える」書店は129軒(64%)で、「1階」にある書店と比べると少ない。「日曜日に営業している」書店は78軒で全体の約39%と、4指標の中では最も少ない。店舗の存在をアピールする「看板⁶⁾がある」書店は178軒で全体の90%近くに達している。

次に経歴とクロス集計すると、「1階」「外から見える」は【存続】が【新店】よりも特化係数が大きく、逆に「日曜営業」では【新店】の方が多くなっている。「看板あり」については大きな差はない。

②開放性4指標全体での特徴:さらに近岡ら¹²⁾に倣い、4指標すべてに当てはまる書店を「開放的」書店、すべてに当てはまらない書店を「閉鎖的」書店と定義する。「開放的」書店は48軒で全体の約24%である。「閉鎖的」書店はわずか6軒のみで、全体の3%のみである。「開放的」書店は【存続】が多く、「閉鎖的」書店は【新店】が多い。

(4) 4章のまとめ

成熟期以前から【存続】する老舗書店は、研究者・専門家向けの分野を専門とする。「店売り」が多く、その開放性は「1階」「外から見える」「看板あり」で高い。つまり営業上有利で書籍の搬入などにも便利な「1階」に多く立地

していることが、開放性を高め、客の誘致にも貢献しているのではないだろうか。

一方成熟期以降に神田神保町へ立地した【新店】では、一般向けの専門分野という傾向が読み取れる。「事務所のみ」が多いことも特徴であり、新たにインターネットや目録を通じた販売のみを行い事務所のみを構える書店が近年立地してきたことを示していると考えられる。また【新店】は「1階」「外から見える」が少なく「日曜営業」が多いことから、「1階」に立地していないという不利があっても「日曜営業」を行うことなどによって、開放性を高めようとしていることが推測できる。

ちなみに、「ノンジャンル」は【新店】が【存続】よりも相対的に少なくなっていることから、最近では専門性(ジャンル)を有した書店が増えている様子が窺える。

5. 各ブロックに立地する書店の特徴

3章においてブロックによって書店数の変遷が異なることが、4章においては立地する書店の性質の変容が示された。そこで本章では前章で用いた指標により、現在の書店の立地特性を示し、ブロックごとの特徴を明らかにする。なお3, 4章と同様に、専門分野・販売形態・経歴に関しては246軒を、開放性に関しては「店売り」の201軒を対象とする。まずブロック・表裏別の各特徴の割合を全体平均で割った特化係数を算出し(表6, 7)、その値から特徴を読み取った。

(1) 書店の基本属性の特徴

①専門分野：専門分野別に同ブロック内で5軒以上あるものの特化係数を見ると、「サブカルチャー」は〔北西〕〔南〕で多く、「趣味・アート」「人文科学」は〔北〕で特に多いことが分かる。「外国書」は〔北西〕、「自然科学」は〔南〕、「ノンジャンル」は〔南〕〔東〕で多い。このように各専門分野の書店は神保町エリアに満遍なく分布しているのではなく、分野によっては特定のブロックにある程度集中して立地していることがうかがえる。

②販売形態：「店売り」は〔表〕や、中心的ブロックの〔南西〕〔南〕に多いのに対し、「事務所のみ」〔裏〕〔北西〕〔東〕に多く、際立って〔北西〕に多い。これらとは逆に、「事務所のみ」は〔南西〕〔南〕が非常に少ないことが特徴的である。

(2) 書店の開放性の特徴

①開放性の各指標：「1階」は〔表〕〔北西〕〔南〕〔東〕に多く、〔南西〕は全体に比して少ない。「外から見え

る」は〔表〕〔北西〕〔南〕に多い。「日曜営業」は〔表〕〔南西〕〔南〕に多く、〔北〕は非常に少ない。〔南西〕や〔南〕は約50%が日曜も営業しており、立地場所が日曜日も営業する動機付けとなっている可能性が窺える。「看板あり」は〔表〕に104軒中100軒と非常に多く、〔南西〕〔南〕に多い。

②開放性4指標全体での特徴：4指標全てに該当する「開放的」書店は全ブロックに一定量以上存在しているが、〔表〕〔北西〕〔南〕に多い。特に〔南〕には48軒中22軒が立地している。「閉鎖的」書店はすべて〔裏〕に立地しており、〔表〕には見られない。

(3) 書店の経歴別の特徴

【存続】は〔表〕に非常に多く、【新店】は〔裏〕に多い傾向がある。書店数を見ても、〔裏〕の【新店】が全246軒中102軒と最多となっている。

ブロック別に見ると、【存続】が多いのは〔南西〕〔南〕〔東〕で、〔南〕では【新店】(35軒)に匹敵する数の【存続】(32軒)が存在、また〔東〕は総書店数はさほど多くないものの【新店】(8)を上回る数の【存続】(12)が存在している。一方【新店】は〔北西〕〔北〕に多く、〔南〕では【新店】の書店数が【存続】の2倍となり、〔北〕では5倍にも達している。

以上より、現在の神田神保町に存在する書店のうち、【存続】書店は、成熟期に入る前から書店立地数の多かった場所に多く、【新店】は近年書店数が増加した場所に多いことがわかる。

(4) 特徴的なブロック間の比較分析

(3)で見たとおり、ブロックごとに立地する書店の経歴の

表6 書店の特徴と立地場所 ※カッコ内は特化係数

	表	裏	北西	北	南西	南	東	特徴別計	
経歴	存続	64 (1.48)	26 (0.56)	14 (0.87)	11 (0.46)	21 (1.17)	32 (1.31)	12 (1.64)	90 (1.00)
	新店	54 (0.72)	102 (1.26)	30 (1.08)	55 (1.31)	28 (0.90)	35 (0.82)	8 (0.63)	156 (1.00)
専門分野	サブカルチャー	14 (0.97)	16 (1.03)	7 (1.30)	4 (0.50)	7 (1.17)	11 (1.35)	1 (0.41)	30 (1.00)
	趣味・アート	25 (1.02)	26 (0.98)	4 (0.44)	21 (1.53)	13 (1.28)	9 (0.65)	4 (0.96)	51 (1.00)
	人文科学	15 (0.82)	23 (1.16)	7 (1.03)	15 (1.47)	6 (0.79)	9 (0.87)	1 (0.32)	38 (1.00)
	社会科学	6 (0.89)	8 (1.10)	3 (1.20)	3 (0.80)	3 (1.08)	2 (0.52)	3 (2.64)	14 (1.00)
	外国書	6 (0.52)	18 (1.44)	6 (1.40)	6 (0.93)	3 (0.63)	7 (1.07)	2 (1.03)	24 (1.00)
	古典籍	7 (1.62)	2 (0.43)	2 (1.24)	2 (0.83)	3 (1.67)	2 (0.82)	0 (0.00)	9 (1.00)
	自然科学	7 (1.22)	5 (0.80)	2 (0.93)	0 (0.00)	4 (1.67)	5 (1.53)	1 (1.03)	12 (1.00)
	ノンジャンル	27 (1.34)	15 (0.69)	5 (0.67)	9 (0.80)	7 (0.84)	15 (1.31)	6 (1.76)	42 (1.00)
その他・不明	11 (0.88)	15 (1.11)	8 (1.72)	6 (0.86)	3 (0.58)	7 (0.99)	2 (0.95)	26 (1.00)	
販売形態	店売り	104 (1.08)	97 (0.93)	27 (0.75)	54 (1.00)	44 (1.10)	62 (1.13)	14 (0.86)	201 (1.00)
	事務所のみ	10 (0.63)	23 (1.34)	14 (2.37)	10 (1.13)	3 (0.46)	2 (0.22)	4 (1.49)	33 (1.00)
	不明	4 (0.69)	8 (1.28)	3 (1.40)	2 (0.62)	2 (0.84)	3 (0.92)	2 (2.05)	12 (1.00)
立地別計	118 (1.00)	128 (1.00)	44 (1.00)	66 (1.00)	49 (1.00)	67 (1.00)	20 (1.00)	246 (1.00)	

表7 書店の開放性と立地場所 ※カッコ内は特化係数

	表	裏	北西	北	南西	南	東	計
1階	77 (1.04)	66 (0.96)	21 (1.09)	37 (0.96)	27 (0.86)	47 (1.07)	11 (1.10)	143 (1.00)
外から見える	69 (1.03)	60 (0.96)	21 (1.21)	31 (0.89)	24 (0.85)	45 (1.13)	8 (0.89)	129 (1.00)
日曜営業	48 (1.19)	30 (0.80)	10 (0.95)	11 (0.52)	21 (1.23)	32 (1.33)	4 (0.74)	78 (1.00)
看板あり	100 (1.09)	78 (0.91)	23 (0.96)	44 (0.92)	43 (1.10)	56 (1.02)	12 (0.97)	178 (1.00)
開放的	30 (1.21)	18 (0.78)	9 (1.40)	6 (0.47)	8 (0.76)	22 (1.49)	3 (0.90)	48 (1.00)
閉鎖的	0 (0.00)	6 (2.07)	2 (2.48)	3 (1.86)	0 (0.00)	1 (0.54)	0 (0.00)	6 (1.00)
計	104 (1.00)	97 (1.00)	27 (1.00)	54 (1.00)	44 (1.00)	62 (1.00)	14 (1.00)	201 (1.00)

傾向は異なる。最後に、総書店数が多く【存続】の特化係数の高い〔南〕ブロックと、同じく総書店数が多く【新店】の特化係数が高い〔北〕ブロックとの比較を行い、その基本属性や開放性の相違を明らかにする。

まず専門分野に関しては、〔北〕は「趣味・アート」「人文科学」が最多であり、5ブロックの中でも最も多い。それに対し〔南〕は「サブカルチャー」「ノンジャンル」「自然科学」が最多であり、「ノンジャンル」には三省堂書店のような総合大型書店が、「サブカルチャー」にはマンガやアイドル歌手関連の書籍がそれぞれ含まれることから、娯楽でも利用でき敷居が低い、換言すれば間口の広い書店が多いと言える。

販売形態については、「事務所のみ」が〔北〕では10軒（特化係数1.13）と比較的多かったのに対し、〔南〕では2軒（同0.22）とかなり少なく、このブロックに存在する書店はほぼ全部、店頭で客を受け入れており、「本を買いに訪れる」先として活気を生み出していると考えられる。

さらに開放性についてみると、〔南〕では4つの指標全てで特化係数が1を超えて、高い開放性を有しているのに対して、〔北〕は全て1未満である。特に「日曜営業」では大きな差がついており、〔南〕では約半数が「日曜営業」に該当するのに対し〔北〕では1/5程度でしかない。

以上のことから、〔南〕は古くから店売りをしており、多くの人を訪れる可能性のある、いわば典型的な「本の街」のイメージ通りのブロックである。それに対し〔北〕ブロックは、新しく立地した穴場の書店が多く含まれ、平日に個別の店舗に狙いを定めて客が訪れるようなブロックであると言える。

(5) 5章のまとめ

以上のように神田神保町ではエリア内でのブロックによって立地する書店の性質が異なる。古くから有名書店の集中するブロックでは、取り扱い分野の間口の広さや高い開放性を有することから多くの人を訪れる可能性があり、昔からの「本の街」としてのイメージを保っている。その一方で、新しく書店が立地するようになったブロックでは開放性は低くとも専門分野を有する書店が数を伸ばし、「本の街」の全体像を少しずつ変えることで、神田神保町の新陳代謝の役を担っていると言えよう。

6. 結論

①神田神保町は、古本まつりの開始や古書店地区帖の配布が始まった1960年頃に『本の街』として成熟したと捉えられ、1995年以降は一般消費者へのメディア露出が高まっている。現在の構成業種からは神保町は名実ともに「本の街」であると言え、本の街としての神保町エリアは、「書籍・雑誌小売業」の集積状況から、神田神保町を中心とする6町目に特定できた。

②神保町エリアの書店数は1995年以降大幅に増加し、近年は約200軒に達する。立地を見ると、かつての表通り中心の線的分布による「本の通り」から、現在では裏路地まで

含めた面的分布に変化して「本の街」となった。これまでの店舗は「新規」「消滅」が8割を占め、専門店街としての成熟後もエリア内外の活発な新陳代謝があることで、常に新規性を保ちながら「本の街」の活力を保っている。

③成熟期以前から立地する【存続】書店は、研究者・専門家向けの分野を専門とし、営業上有利な「1階」に多く立地し、開放性も高い。逆に【新店】は一般向けの分野を扱う書店が多く、「事務所のみ」の書店も【存続】に比して多い。「1階」に立地する書店は少ないが「日曜営業」を行うことで開放性を高めようとしている姿が窺える。

④ブロックごとに立地する書店の特徴を見ると、老舗の集中するブロックでは取り扱い分野の幅広さや高い開放性を有し、昔からの「本の街」のイメージを保っている。一方新しく書店が立地するようになったブロックでは、開放性は低いものの専門分野を有する書店が数を伸ばし、「本の街」の全体像を少しずつ変えるような新陳代謝の役を担っている。

以上のように、成熟した専門店街・神保町エリアでは、象徴的イメージを保つ界限と、新しい展開を育む界限の両方があることで、「本の街」としての位置づけを保ちながら継続的に発展することができてきたと総括する事ができよう。

【補注】

- (1) 「神保町 and 本」「神保町 and 書」で検索し、書店街に無関係の記事を除外した。
- (2) 明大通り以东は少数のため統合。
- (3) 書店名の変更は旧書店の「消滅」及び新書店の「新規」として扱った。
- (4) 「BOOK TOWN じんぼう」HPでは、掲載古書店についてサブカルチャー、趣味・芸術、美術・版画、思想・宗教、文学、歴史、社会科学、外国書、古典籍、自然科学、古書全般、卸専門の12の専門分野が示されている。上記に該当しない書店については、店舗のHPや電話調査から専門分野を判定した（不明24軒）。さらに趣味・芸術と美術・版画を併せて「趣味・アート」に、思想・宗教と文学と歴史を併せて「人文科学」に、卸専門と不明なものは「その他・不明」として専門分野を再分類した。
- (5) 扉や窓面に店名を記しただけのものは看板として扱わない。

【参考・引用文献】

- 1) 杉山真人 (2000)、「東京23区における専門店街の形成過程に関する研究」、都市計画論文集、vol.35、pp373-378
- 2) 渡邉まか (2002)、「大阪市における専門店街の発展過程と店舗の立地分布特性に関する研究」、都市計画、240、pp66-74
- 3) 神田書籍商同同志会 (1937)、「神田書籍商同同志会史」
- 4) 東京都古書籍商業協同組合第一支部 (1964)、「稿本神田古書籍商史」
- 5) 東京都古書籍商業協同組合神田支部 (1979)、「神田古書籍商史 続編」
- 6) 東京都古書籍商業協同組合 (1974)、「東京古書籍組合五十年史」
- 7) 毎日新聞社 (2005)、「神田神保町古書街」、pp74-75
- 8) NPO 法人連想出版、BOOK TOWN じんぼう、<http://jim bou.info/>、2007年1月
- 9) 経済産業省経済産業政策局調査統計部 (2002)、「商業統計」
- 10) 関東電気通信局・日本電信電話公社・東日本電信電話 (1969~2006)、「電話番号簿：職業別 (東京都電話帳 (タウンページ))」
- 11) 前掲8)、英山堂書店、<http://jim bou.info/town/ab/ab0024.html>、2007年4月
- 12) 近岡祐太ほか(2005)、「東京23区におけるギャラリーの空間的特性に関する研究」、都市計画論文集、40-3、pp883-888